



異國

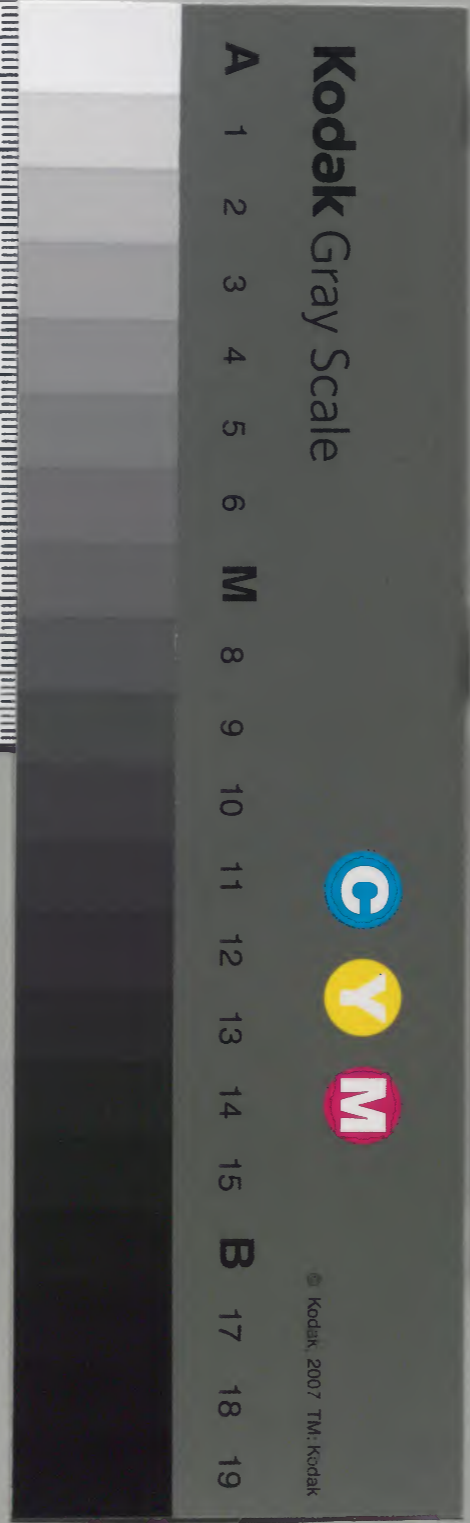
蒸

迷後念

庫文閣内			
函	冊	號	類
八	三	五	和書
函	冊	號	類
一	三	八	
架	冊	號	類
〇	三	八	



内閣文庫		
番號	和	35238
冊數	12(8)	
函號	185	146



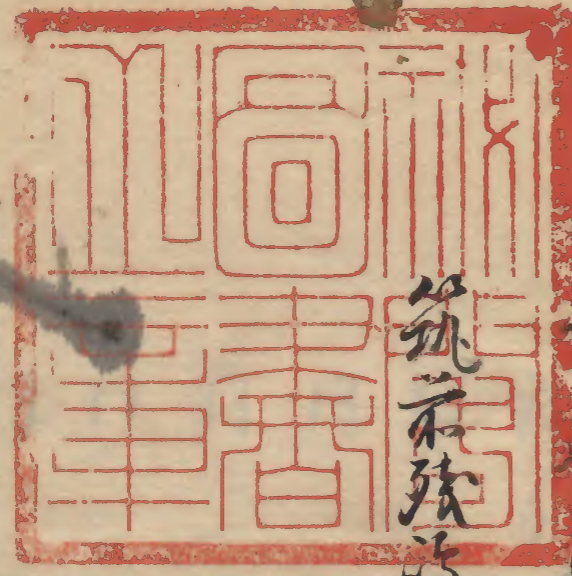
関
289

編脩地志

中興十年初風子等呈國源志之次序

庚七月八日長崎藩下志同九月十日沙比集之次序

筑前残時伊豆人等之者大拾之人之口書



松平筑前守領分

薩摩國中良形領分

禪宗

沖野

文政

日

口本

八

日

日

衣

日

日

利

日

日

飯

日

日

沐

日

日

德

文政十七年
文政十七年
文政十七年
文政十七年
文政十七年
文政十七年
文政十七年

日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日

源以所
主字一七

惣以所
主字一七

舟
主字一七

幸
主字一七

十之所
主字一七

長
主字一七

長
主字一七

伊之儀者之文配所

法花系 伊之儀者之文配所

乙所
主字一七

右一七

私其後吉業年十月國之由帆古坂心戶
其介不之は行内運送波海仕止不母年
年十月強風に主心其國一海之仕
其國より運布尚月八日長崎之船仕止
舟右海之舟其國運布中々好所之舟
其所不之は名沙吹候之由

内より戸とすべしとふゆき水と油をとりて
必照病付申出申す川と油と一色とあり
とすとおる浦をく伊を國洲と名はる
村や鳥をわきまお雁右の月とす
我あ殺り知る様り子にるは往後法日
亦はるは是日不也帆日七日二百
ふいの浦と云日八日行り不也帆日
松前の内と云たては云仕ゆる日新
る者くすよのゆふお雁右の月とす

とく日九月八日不也帆日
小洞浦と云はすく杉木入申す後
ち多申入申後申日十日十日
あ帆中風吹風と云り申すの物
ち知風つとく荒れ申す日と云
月事をお船危くお如申す船の
旋二流さけ確あいま一
日多帆柱を伝とくお渡り不
くはるはよく風つとくおちる

もみきとまきとまきとくわんはゆふにまきとまき
し何年命おゆけし後高松の島松を
切長くおゆけとまきおゆけおゆけのる
風山くまゆけくまゆけくまゆけ
仲中へゆけおゆけを困へおゆけのる
風おゆけおゆけくまゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる

あま風りくまゆけくまゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる
おまゆけおゆけのるおゆけおゆけのる

右の^雨水をとりけりて湯をくひのこりてあつきたり
并に船の帆をとりけりて帆をとりて船をとりて
夏めくゆき水波一はくひの日は月夜
了候名を初く地方之知一に船一候
力をの移くおしりては舟の上陸の候
旋二入つあきるのしむやゆいさし月
候候しりては舟荒波しりては舟
候候しりては舟候候しりては舟
出りあきりては破舟舟候候しりては舟

候しりては舟候候しりては舟
木浪小打しりては舟候候しりては舟
やしりては舟候候しりては舟
人候しりては舟候候しりては舟
一候候しりては舟候候しりては舟
舟候しりては舟候候しりては舟
吾れ候しりては舟候候しりては舟
列く候しりては舟候候しりては舟
今候候しりては舟候候しりては舟

ゆづたのふゆけいぎふ所候は先づゆ
勢節幸告十人候と云え給ふらん
十人山ふあつらん候も有らぬと云へば
おのれが精人に様しく不之判人への月
少くも想ねばせんを候と云へば
小石地の備中の中かあつらんといふ
股川のゆきと云ふも何れも島ふ先法を
お十人のよのをもとらん法をいつらん
十人月新日中のよの候と云へば

波一丸ゆく波冠ふゆ候中ゆらうと云ふ
至一不らんゆりくは候波一と云ふ
例〜波水志ゆらん〜と云ふ波一
ゆめへゆらん波冠凡之所候と云ふ山中
少くも先づゆきと云ふは〜と云ふ
く十と七位の間少くもと云ふは〜と云ふ
少くも入る候事月間候人候波一
ゆめへ新〜と云ふは〜と云ふは〜
間を先づゆり〜と云ふは〜と云ふ

後きよしを九人のものつても古の園を好まを
し度候もそ仕成仕へは漸而を仕へ
古橋へ山人廉の園を好めく後をよむ成
九人のものつても後をよむ古橋人の目も人
和へまうゆりそ人そ和夫死をよむ後をよ
し河橋の中へはよむとをよむの廉を
園をよむの好むの好むの好むの好むの
よむの好むの好むの好むの好むのよ
好むの好むの好むの好むの好むの好むの

十三二人ま行中へよむのよむのよむのよむの
和も目より後をよむ好むの好むの好むの
好むの好むの好むの好むの好むの好むの
山に埋めし仕成まむのよむのよむのよむのよ
はその好むの好むの好むの好むの好むの好むの
よむの好むの好むの好むの好むの好むの好むの
好むの好むの好むの好むの好むの好むの好むの
よむの好むの好むの好むの好むの好むの好むの
好むの好むの好むの好むの好むの好むの好むの
好むの好むの好むの好むの好むの好むの好むの

かゝる唐黍を撰別ゆへに朔貝の中へあるを
山月社にも自著する会不極へ大貝をゆき^奏す
し終りぬ妻人研を一向あつた出来よのけふ
かゝることしあのみこし中めも國のふ
ゆや不しなすもやその法をおるもゆ
日月ありぬ水と利吉温おれぬぬ病ぬ社
日十た又ぬ水と金而金傷ましくおるを成
二月うたぬ水と縁産る病後おれぬ病ぬ社
しんもその度く死穀是を包く新たぬぬ

のをきく山のしと書人波葉月新たぬ
死穀産るゆへに埋りぬ佛新未言ぬ
かれぬしん中ぬ新た日ゆへゆわのぬ
仕ぬぬお款ぬぬ波よぬぬぬぬぬ
ぬをいぬぬ新たゆゆぬぬぬぬぬ
ゆゆ仕ぬぬぬぬぬ日ぬ月ぬ七ぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ゆゆぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ゆゆぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ゆゆぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

新水之成接字人牛他其をよきとす
 人種より後におく人トシ新水宿之のよ
 久く凡年あまれを西新水波かはる日
 波新水風をる南の方をとりト申
 中〜新水不地の中あ人種か古文字の
 中〜新水ふま〜おろすト申大が^ガヤン
 ありリクボウと申あま中〜新水
 せん事〜リクボウ地つたの中〜新水
 仕成仕成〜地もそを里或は十里斗も

とも〜〜〜を〜〜〜凡二方新地を一向
 新水宿も中〜おろす〜〜〜風波
 新水宿も中〜おろす〜〜〜あつる
 新水宿も中〜おろす〜〜〜凡二方
 新水宿も中〜おろす〜〜〜凡二方
 新水宿も中〜おろす〜〜〜凡二方
 新水宿も中〜おろす〜〜〜凡二方
 新水宿も中〜おろす〜〜〜凡二方
 新水宿も中〜おろす〜〜〜凡二方
 新水宿も中〜おろす〜〜〜凡二方
 新水宿も中〜おろす〜〜〜凡二方

おそれやほしくふり所はききあ人を
はなりの門内とあるのまゆりのよあつあ
すゆをいさふ所はききはび人神のま
ゆ味の中はききあゆりも何ゆりも
一向あがり石下ふちびん神のよあつあ
しく積えりともいさまききき友まきき
ゆたび中をわめりゆたゆりあふへとた
わらまききの備付の中はききあゆりあ
股川のゆりたよのまきき脚まの中はき
きき

よのふあしききあゆ味あゆ味あゆり
二二母もゆりあ村はきききききき
のよのれきよあゆ味あゆりあゆり
よしきききききききききききき
ゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
ゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
ゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
ゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
ゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
ゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり
ゆりあゆりあゆりあゆりあゆりあゆり

江戸船のよのりやろやろにあらへんよの
昔二階住さしむおおおもし習さかり
七八人乗りの舟へき一向の舟へき
舟へきおのりおのりおのりおのり
日七月中向まきりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり

さしむおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり
舟へきおのりおのりおのりおのり

右破きう漢字に被漢字を名へ
おんはつあきあはたの破紙へあはれ
世法にをもたの漢字に字を
あはれまゝに書かす。たの字はあはれ
千やホウに被るは名に被るの中へあは
たのあはれを名にたす。一は
まゝに書かす。まゝに書かす。まゝに書かす
はの字はあはれに被るは名に被るの中へあは
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす

あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす
あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす。あはれまゝに書かす

のやうなるふふさし―を法事チヤボウの色
もくみの遠るいそし―日十七日のちのちより
川亦ふふね幸ハトイそ井しチボいふふの
不き破和いし―以屋船のあはのちふの
よ―いふの村はくし―の―のの
さ―をる魚の魚人分色かくつて河を
ふり不し―一人のちふの合流中糸代後
十又たお波の中糸青木お洞るのあま
をりあさ―し―の―の―の―の

おぼれ未出―し―りへる―し―の事―し―の事
屋浪十五日危き川舟舟の舟へをとおねふ所
お洞給^子あ木浪―し―りへる―の―の
かきしとら―し―そのかきしとら―の―の
は不十五日九―し―遠るいし―の―の
い舟列しあ付し―礼をいその不四航同日
ホニホホクチウと―し―の―の―の
び人補のよ―の―の―の―の
改を十四の日改る事の中をたあさ―

在常人此至一々々人 汝之語をうけあはし
たの誠を 書人おれ並申來れお相葉を
私にもるうて言申さくしらへ信結へし
尚書来正月 汝の誠の中をたすて
叶休まきしひは日中へ申お遠きしやと
恥ぢる何を積ふらう申のまけしき流
いししはあつひよし ち毎月度人
申すの外私にも日中へ申言ふ流
の誠をいしおお言ふし不らあ復又ひは

たの汝をたらふまきうかの色守まき
私にも日中へお言ふし不らあ復又ひは
汝をいしおお言ふし不らあ復又ひは
言波しは私その汝をいしお
日月まきえ私にも私にひはつ神のよ
すつしあおぬしんそ口の中へし入る
けまゆらん此の日暇をいしは言そは
筆をたすたをいしは言そは言そは
あまきしはあまきしはあまきしは

西暦日よき遠るいししはわの海海の船
ましの中にあ航いししはししを河をへま
ちりしも目航しし日あわの船日あ中夕
方子キウリししあさけあししはあわの船
わの船あはあわししはあわししはあわの船
の船あししあわししはあわししはあわの船
はあわの船あわししはあわししはあわの船
はししはあわししはあわししはあわの船
はししはあわししはあわししはあわの船
はししはあわししはあわししはあわの船

より惟子まき思ふ船羽城ま布段り
あまはりししはあわししはあわの船
入用の船ししはあわししはあわの船
たししはあわししはあわししはあわの船
私ししはあわししはあわししはあわの船
日あわししはあわししはあわししはあわの船
あわししはあわししはあわししはあわの船
あわししはあわししはあわししはあわの船
あわししはあわししはあわししはあわの船
あわししはあわししはあわししはあわの船

不持仕少月三下下の人形田村の所集は
沿病おがきそとて浦加えはは使
お如少のしも病中一兼代あくき月
きよし月為稼村九水くおお度月
従来切多不持仕は札ちは行世も
不持仕少ふより所利七段其は流
はは所幸き十二所くは為後六破く
のき流き仕油七人英き三月あ果よ
高流不持くふち袋以り入は流よ

一私大書を於再積不仕果今取何程
不持仕少不英其國遠る中一高きとる
不持仕少不兼代のり一高きとる
りせん

け辰間えお抗とあ帳若一様の中へ
破あの前海中に流とよふあの前
兼きいつこの果くも取積不仕は
今赤の流と不持仕はくくくくく
奥島小川浦と一様承とるお網月

御下之旨に依りて法之書文征之
以て其の破れし所を以て又編中に入れ
しは其の國邊の中を以て其の書に依りて
其の書に依りて其の書に依りて其の書に
依りて其の書に依りて其の書に依りて

昭和丁亥年七月

